

# 県の思い・会派の主張



6月県議会が終わりました。  
今回の議会は、  
将来の秋田の姿を左右する  
幾つもの課題を審議しました。  
そんな中から、  
地域にとって関係の深い  
補正予算を中心に議論の概略を報告します。

秋田県議会 ● 会派 i b u k i

元気主義

県政報告 & 会派いぶき活動レポート

2008  
夏 通巻 21  
平成20年7月9日

## 「鉄道利用応援経費 240万円」

今県議会でも秋田内陸縦貫鉄道の存廃議論が多く行われました。折しも仙北・北秋田両市の職員による列車通勤や両市議会の特別委員会の設置、民間の乗車運動などがマスコミで報道され、また県議会の内陸線研究会レポートが広範に配布されるなど、県民世論が存続の可能性を探る方向に傾きつつある中、知事発言も微妙に変化。先の2月県議会総括審査で、公有民営方式（鉄道施設の保有管理と列車運行の主体分離）の導入を勧めた際の答弁「期待はしていません」から、今県

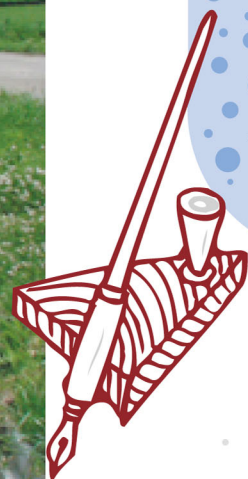
議会では「有効策だと思いません」に前進しました。近

日中に仙北・北秋田両市議会と話し合いを持ちたいとも話しています。

この秋、新設が予定される国土交通省の鉄道軌道高度化補助制度では、内陸線が必要とする約9億円の安全対策事業費を、3分の1程度補助対象にできる試算があります。また地方交付税の配分で施設維持費を考慮するよう、県は総務省に要望を行っています。

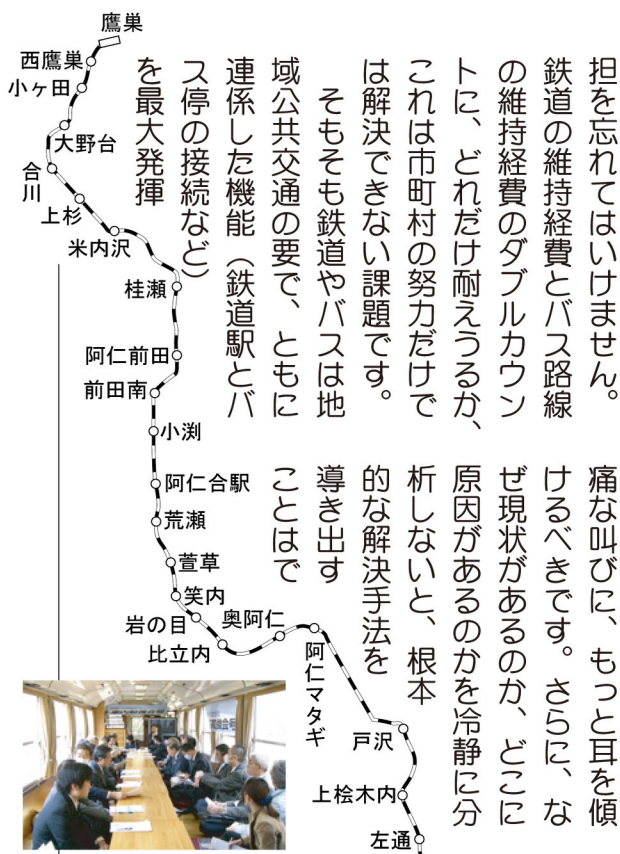
県独自の利用応援経費240万円も今回初めて計上されました。Ⅱ次頁に続く

注目された補正予算





存続に向け条件が少しずつ見えてきた状況ですが、自治体負担を忘れてはいけません。鉄道の維持経費とバス路線の維持経費のダブルカウントに、どれだけ耐えられるか、これは市町村の努力だけでは解決できない課題です。



## 高校耐震化経費 5515万円

今議会で、注目を集めた案件の一つが県立高校の耐震化に向けた取り組みです。中国四川省の大地震は、学校の倒壊などで多くの子ども達が犠牲となりました。さらに岩手宮城内陸地震で、耐震対策は緊急課題です。県議会開会中の6月30日、県教育委員会は記者会見を開き、全県立高校54校36



できるような工夫が必要で、そんな支援も含め、県や国は人口減少と高齢化の波に飲み込まれる地方の悲痛な叫びに、もっと耳を傾けるべきです。さらに、なぜ現状があるのか、どこに原因があるのかを冷静に分析しないと、根本的な解決手法を導き出すことはできません。

きません。再生支援協議会は機能しているのか、会社のマネージメントは適切か、そして責任の所在の明確化です。鉄道はまちづくりの背骨といつてよい社会資本です。存続の決意を固め、一刻も早く法定協議会を立ち上げて所要の手続きを行わない限り、有利な制度も何も活用できません。



角館南高校



補正予算にも5校（角館南・大館桂・能代西小坂・増田）の耐震診断経費、約5515万円を計上しました。



▲早朝、上りと下り列車がごあいさつ（八津駅で）

## 病院独法化経費 2335万円

全国の公立病院は公的政策的医療機関です。不採算医療を担っている上、診療報酬のマイナス改訂、自治体の財政難などで、一段と経営は厳しさを増しています。秋田県の2県立病院（脳血管研究センター・リハビリテーション精神医療センター）も同様です。そこで県は平成17年、2県立病院

内の角館南高校（教室・特別教室各等）は予算化できませんでしたが、角館高校（教室棟）、大仙市の大曲高校（教室棟・北校舎各棟）、大農業高校（教室棟）なども倒壊の危険校に含まれています。県教育委員会は、今回発表した20校について過激な不安は不要としています。でも残念なことに、地震は規模や時期の特定が困難です。また統合開校のスケジュールが決まっている学校であっても、その間（統合決定から開校まで平均5年が必要）に地震が起これないとは断言できません。子ども達の生命に直結する取り組みだということを再認識して欲しいと思います。

## 地域振興局再編計画と地域事情

地域振興局は県内8ヶ所にあり、「小さな県庁」的存在の県出先機関です。県では来年4月を目処に、この8地域振興局を3局に再編し、残りを行政センターに移行する計画を進めています（例えば仙北地域振興局は雄勝地域振興局と共に平鹿振興局へ再編され、行政センターに）。市町村合併の進展により県から市町村への権限移譲が進んでいます。後年はその結果として県（地域振興局）の役割が薄れること、行財政改革の一環で県職員の削減を進めた場合、現在の8地域振興局のままでは機能不全になること、また広域行政の視点から隣接県との連携による課題解決が増えたこと、…などを理由に再編プランが作成されました。県はアンケート調査を行い、県民から意見を聞きたいとしています。

でも地域振興局はまちづくりの前線基地で、地域や市町村と距離的にも“精神的”にも傍らに存在することが大前提です。行財政改革は場面を誤れば、県も市町村も地域も自己再生力を失う諸刃の剣です。仙北・大仙の両市議会、美郷町議会は仙北地域振興局の存続に向けての決議を可決しました。議会の決断は住民の声です。これを県はしっかりと、そして重く受け止めなければなりません。

## 国への要望内容

県では毎年、国に対し法律や制度の改正を要望しています。今年も多数の要望案件がありましたが、いぶきは次の項目で追加・修正を申し出ました。

### 《食糧自給率の向上について》

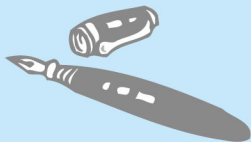
水田の有効活用を図るなど、農用地の高度利用を進めて自給率を高める必要がある。そこで政府開発援助（ODA）での米利用、米粉生産のプラントづくりを加速する制度の創設を求める。

### 《農山村政策の一元化について》

農山村に関する政策軸が総務省、農林水産省、国土交通省、環境省など縦割りで総合戦略になっていない。機関統合も合わせ各省横断型の対応を求める。

### 《災害復旧事業について》

一般的に災害は原形復旧（被災前の状況に復旧すること）を基本としていて、現法下では災害の原因対処ができない。公共土木・農地農林の取り扱いを是正し、一体復旧ができる必要法律の見直しを求める。



▲担当者会議(会派いぶき控え室)



▲県立リハビリテーション精神医療センター

の在り方や経営改善を研究する検討会を設立。最終答申で、2県立病院を一緒に運営する独立行政法人の組織化が最適と結論づけました。この決定によ

り昨年の12月県議会、今年2月県議会と法人化に向けて準備予算が提案されました。県議会はこれを2度にわたって減額修正。その時点では法人化のメリット、デメリットなどが明確にな

り、6月県議会の開会にあたり、様々な不明点が明らかになったことなどにより、県が提案した補正予算2335万円は、賛成多数で可決しました。

いぶきの主張

いぶきは2月県議会で法人化予算の減額修正案を提出しています。そしてこの修正案が全会一致で可決されています。

法人化移行の優位性が不透明なこと、また法人化以外の手法も検討すべきであること、成人病医療センターとの統合議論は、2県立病院と同時に語るべきではないと訴えました。

今回、県から不透明だった法人化のメリットとして、理事長権限を強化し人事・予算を柔軟に執行する被公務員型組織に移行できる、今後5年間で集中的に経営改善を行い黒字経営の見通しがたつ、脳血管研究部門を維持しての法人化であることが示されました。また別の手法での経営、例えば自治体直轄の公営企業法全部適用運営などでの対応は、弾力的な病院運営に限界が

あるとの調査を踏まえたこと、成人病医療センターとの統合は今回の2県立病院の法人化と関係させないとの答弁もありました。

医療の質の確保、サービスの向上を実現するための経営改革です。独立行政法人となった場合も県立病院に違いはありません。

# 新たな発想に期待!

## 田沢湖プロジェクトで アイディア発表会

秋田大学教育文化学部の島澤ゼミ(経済学)・中村ゼミ(政治学)・石沢ゼミ(社会学)の皆さんと共同で、田沢湖畔地区などの活性化プロジェクトを進めています。これまで大学での研究や田沢湖での現地調査などを行ってきました。学生は4つのテーマを設定しています。「定住化促進」「テンミリオン交流」「観光政策」「観光の経済効果」です。現地調査では空き家確認、観光客へのインタビューなども。また行政担当者との意見交換では、「観光政策を進めることで地域はどう変化するか」など、興味深い視点を持っていました。この研究成果をまとめ、活性化に向けたアイディアを発表する会(7月19日・田沢湖畔)も開催予定です。参加自由です。



## 視察 レポート

### 湧き水で ワサビ栽培

宮城県加味町を訪ねました。ここの味ヶ袋地区では、湧き水を利用したワサビ栽培が行われています。建設会社の経営で「業界の余剰人員を農業分野へシフト」するための取り組みといます。

担当の瀬尾さんにお聞きすると、「この地区は葉菜山の伏流水が豊富で、どこを掘っても湧き水が出てきます。沢水だと大雨の時なんか流されたりで大変でしょ。水温も9度~13度と一定で、わさび栽培には絶好です。1㎡の棚にワサビの苗16本前後を定植し、1年半から2年栽培して出荷します」と話してくれました。

ワサビは丸ごと1本食用になります。根はもちろん、茎も葉も人気で、最近ではサラダで食べる人が増えているそうです。

## 県政懇談会&「柿酢できた?会」

恒例の県政懇談会を開催します。6月議会の内容をお伝えし、皆さんがご不安に感じていることや地域課題をお聞きする会です。また昨年10月、各地で行った「柿酢講習会」をきっかけに柿酢をつくられた方は、自作の柿酢を少量ご持参ください。感想などをお聞きできればと思います。今回スケジュールの都合でお伺いできない田沢地区、白岩、中川地区の懇談会は次回9月議会後になります。ご了承ください。

7月27日(日)	午後7時~	上桧木内公民館
28日(月)	午後7時~	神代就業改善センター
29日(火)	午後7時~	田沢湖総合開発センター
30日(水)	午後7時~	桧木内公民館
31日(木)	午後7時~	角館交流センター
8月 1日(金)	午後7時~	西明寺公民館
2日(土)	午後7時~	雲沢集落センター

## 編集後記

先日の総務企画委員会でのヒトコマ。県の担当が「来年度から県の総合計画の第4期計画が始まります。え、それで今後の2年間は、これまでの締めめの2年と言うことで、時と豊かに暮らす秋田」ここまで聞いて、もう我慢できませんでした。「それは本気でいっていることですか?時と豊かに暮らすなんていって、それで秋田県は全国最下位の指標をいくつ貯金したと思ってるんですか。もう限界ですよ。働き口がないんです。若者が地域に残れないんです。豊かにも何も暮らせない状況ですよ。全くピントがずれますよ。」久々に我を忘れて怒ってしまいました。みつひろ



## [県政報告] 会派いぶき活動レポート

2008・春号通巻21号 発行者:いぶき代表 門脇光浩

〒010-8570 秋田市山王4-1-1 秋田県議会棟内 TEL018(860)2094 FAX018(860)2109

●門脇みつひろ事務所 仙北市西木町上荒井字新屋10-1 TEL0187(52)5188 FAX(52)5189

●淡路定明事務所 秋田市土崎港東1-2-79 TEL018(847)1915 FAX(847)1914

●東海林洋事務所 湯沢市下院内字常盤町107 TEL0183(52)4703 FAX(52)4703